

本レポートについて

本レポートは、2023年度（2023.04-2024.02）に協働した高等学校の先生方から、NPO DNAが行う「教育コーディネート」に関してフィードバックを頂いたものとなります。

本レポートを通じて、「群馬の10代に、しなやかな学びを。」を実現するためのヒントを頂き、今後の事業活動に活かしてまいります。

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

- 1. 基本情報について
 - 1-1. アンケート調査の基本概要
 - 1-2. 本レポートの扱い・諸注意について
- 2. 先生方が捉えるコーディネートで得られた「手応え」
 - 2-1. 手応え・効果
 - 2-2. 高校生の学び・成長
 - 2-3. 所属校の先生方の変化
 - 2-4. ご自身の学び・変化
- 3. 協働する先生方の立場から捉える「現状認識」
 - 3-1. 現在の課題感
 - 3-2. 具体的な課題認識
 - 3-3. 今後ご自身の学校でさらによりよくしたいこと
- 4. NPO DNAに対する「フィードバック」
 - 4-1. コーディネートの必要性
 - 4-2. コーディネートで助かったと思えること
 - 4-3. コーディネートへの要望点
 - 4-4. もっとこうしてほしいこと・改善点

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

● 1. 基本情報について

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

1-1. アンケート調査の基本概要

● 実施背景：

- NPO法人DNAは、「群馬の10代に、しなやかな学びを。」を実現するべく、県内の高等学校を中心とした学校教育に携わり、先生方と協働しながら、事業展開をしてまいりました。2023年現在、年間を通じたコーディネートでは、県内7校17学年に携わり、群馬の高校生たちの学びを支えてきました。一方、私たちのコーディネートに関しては、いまだ社会において言語化されていることが少なく、「答えのないこと」によりよい解を見出そうと試行錯誤をしている日々です。そこで、日々、信頼関係を築き、協働している先生方からの率直なフィードバックを頂くことで、事業推進の改善に努めてまいりたく、本協力のお願いに至ります。

● 目的：

- ①先生方の立場から高校生の成長や学びの変化をみとるため
- ②教員からのコーディネートに対する評価を受けて改善につとめるため
- ③探究／キャリア教育に携わる人々の知見を確認して広く発信するため

● 期間：

2023年11月30日～2023年2月29日

● 方法：

- Webアンケート

● 対象：

- NPO DNAが協働している高校教員 23名（7校）

● 調査項目：計24問

- 現在、貴校での探究学習の状態の満足度・手ごたえは、どの程度でしょうか。（5段階評価）
- 現在、貴校での探究学習の推進の「課題感」について、どの程度でしょうか。（5段階評価）
- NPO法人DNAのコーディネート（サポート）で「助かったと思えるもの」は何ですか。当てはまるものにすべてチェックを入れてください。
- NPO法人DNAのコーディネート（サポート）によって、得られた効果は何だと思えますか？
- 【自由記述】高校生の学び・成長について、手ごたえを感じていることがあれば教えてください。 など

● 回答者属性

- 探究担当チーフ（部長・コア担当者など） **5名**
- 探究担当者（担任・副担任・学年付けなど） **9名**
- 探究担当以外のミドルリーダー（教務主任・進路指導主任・学年主任ほか） **9名**

● 先生方にご回答いただくにあたって事前にご承知いただいたこと（以下、原文）

- NPO法人DNAスタッフ等の内部情報としてスタッフの共有知とします。今後のコーディネートのある方・取り組み方などに十分に反映し、よりよい教育活動をご一緒できるように研鑽に努めるための素材とします。
- 教員等の広く多数にも情報の一部をWeb等で公開も想定します（ただし学校名・個人名が特定されない形での配慮は十分に行う予定です）。公開の意図は、探究等を行う過程を開くことによって、他の学校で孤軍奮闘している先生方への励みとなる情報や、取り組んでいくための知見、また広く地域社会に発信することで学校の教育活動の理解促進の一助としたいと考えているためです。

● 本レポートの扱い・諸注意について

- 本レポートは、NPO DNAのWebページでも公開されています。 <https://npo-dna.org/>
- 本レポートが、教育関係者にとって広くよりよい学校教育の推進のヒントとしてご活用いただき、一般の方々にとって子どもたちを支えよりよい教育について模索している先生方のお声をお受け取りいただけることを目的としています。
- 回答いただいた内容の中で、学校や個人が特定されるような記述については、できるだけ原文そのままにしながらも、特定されないような配慮としてNPO DNAが一部加工して記載しています。

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

● 2. 先生方が捉えるコーディネートで得られた「手応え」

1. 基本情報

2. 手応え

3. 現状認識

4. フィード
バック

5. まとめ

2-1. 手応え・効果

Q. 現在、貴校での探究学習の状態の満足度・手ごたえは、どの程度でしょうか。（5段階評価）

質問項目	回答数 (n=23)	回答割合
5 理想的な状態	2	8.7%
4 推進ができてよい状態	19	82.6%
3 どちらともいえない状態	2	8.7%
2 あまりよくない状態	0	0%
1 最悪な状態	0	0%

1. 基本情報

2. 手応え

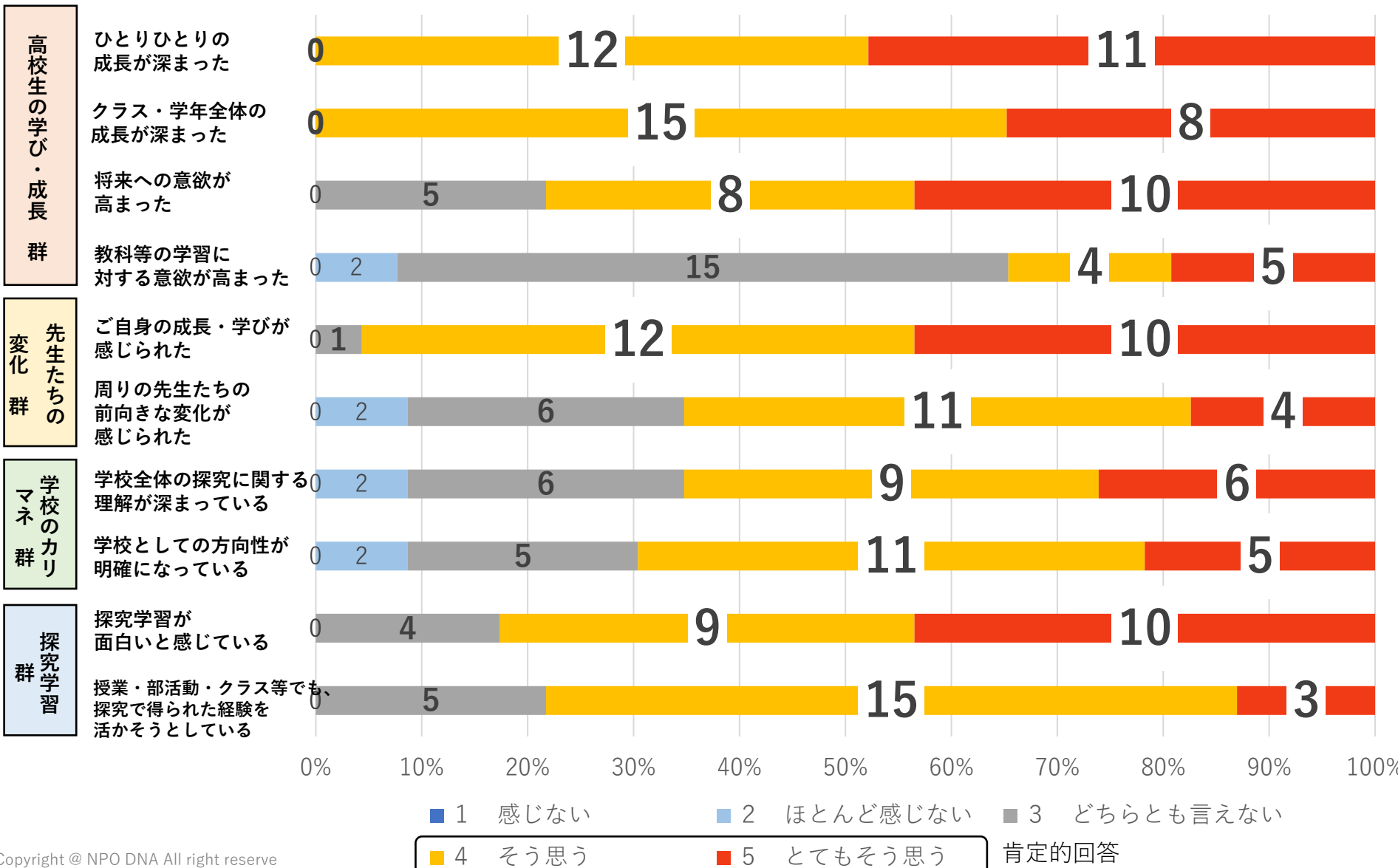
3. 現状認識

4. フィードバック

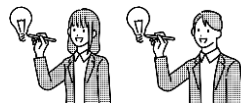
5. まとめ

2-1. 手応え・効果

Q. コーディネート（サポート）によって、
得られた効果は何だと思えますか？（5段階評価）



2-2. 高校生の学び・成長

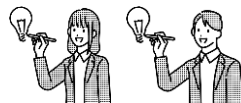


1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

Q. 高校生の学び・成長について、手ごたえを感じていることがあれば教えてください。（自由記述）

【「自らが」学ぶことに対して】

- 学習に意欲的でないように見えた生徒が、探究活動では積極的に意見を出して取り組む姿が見られた。
- 最初はやらされているという感じの強かった生徒が自分から学びに向かう姿や自分からイベントを企画するなど、何事にも積極的になってきたという変化を感じる。
- これまで勉強ができれば・・・という雰囲気であったが、外に目を向ける機会が多くなり、学校だけでは得られない学びを能動的に学ぶ生徒が増えてきた。
- これまで受け身の生徒の割合が高く、力はあるけれどチャレンジしないというもどかしさを感じていましたが、少しずつ、失敗を恐れずに挑戦してみようという意識が高まってきたように感じます。具体的には、「講演会などで質問をする生徒が増えた」「二年生の探究で自ら外部企業等とアポ取りをして、検証活動する場面を多数見られるようになった」などを感じることが多いです。
- 高3生の面接練習をしてみると「高校3年間で最も力を入れて取り組んだことは探究活動です」と言う生徒が増えた。その理由を聞くと皆「〇〇な活動をして、失敗もあったけど、△△な成長ができたから」と答える。探究を通じた自分の成長を語る生徒たちを頼もしく感じます。
- 学びの途中では進捗状況や内容の深さが心配だったが、「まとめ」や「発表」を見ると、視点のおもしろさや考察の深さに感心した。
- 先日、部活の生徒を連れて、県外の高等学校に視察兼交流会に行きました。交流会の最後に振り返りとまとめを口頭で発表する際、本校の生徒は自分の言葉で感じたこと、学んだこと、得たことを発表しました。自分の言葉で語ることでできる生徒たちに称賛の言葉をいただいた時、探究活動を通して「自分で課題を見つけ、自分で考え、自分の言葉でアウトプットする」という資質能力が身についていると改めて感じました。また、探究活動を通して自分自身の可能性に気づき、どんどんフィールドを広げて探究している生徒たちも少なからずいることを知ると、本当に心から嬉しい気持ちになります。
- 毎年入ってくる生徒の実態が異なるので単純な比較はできませんが、一歩前に踏み出す力を身につけたたくましい生徒が多くなったと感じています。
- 探究の時間に自分の興味関心、将来について考え、それをアウトプットする経験をする中で、生徒自身が自分の将来について真剣に考え未来を切り拓こうとする意志を持つことができていると感じています。



2-2. 高校生の学び・成長

Q. 高校生の学び・成長について、手ごたえを感じていることがあれば教えてください。（自由記述）

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

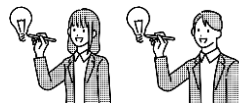
【「他者とともに」学ぶことに対して】

- 他者との協働が難しいと思われていた生徒が、グループ探究の中で、他者とぶつかりながらも、課題をこなしていくことができていた。自分の考えとは違う意見があることに気付き、議論しながらグループの方針を調整していくことができるようになった。
- 日々の授業（教科指導）のスタイルに幅が広がったと感じています。生徒自身が考える活動や生徒同士の対話の中で学び合う活動などがスムーズにできるようになったと思います。探究を通じて、対話することに抵抗がなく、主体性や協調性が育っているためだと考えています。
- 総探の時間を通して、柔軟に物事を考え、多様性を認め合った人間関係のなかで活動する生徒の姿を肌で感じ取ることができ、これまでの生徒観が断片的にすぎなかったことを痛感しています。
- これまで自己開示が苦手だったと思われる生徒が、心を許せる友人であれば自己開示ができるようになってきたかなと思います。

【「社会とのつながりを持って」学ぶことに対して】

- 企業訪問では、自ら率先して先方とのメールのやり取りを行うなど、自律的に（こちらが細かな指示を出さなくても）自ら主体的に判断して行動できる生徒が増えたと感じました。これは、こちらが枠を与える（どちらかという受け身になってしまいがちな）教科学習では実現できなかったと感じます。
- 特にインターンシップを経験し、外部との接触を怖がらなくなったのは大きな成果であると思う。
- 必ず外部の誰かしら何かしらの機関と関わることを生徒に求めたので、予想よりアクションに広がりをもたせることのできた生徒が多かったように思う。

2-2. 高校生の学び・成長



1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

Q. 高校生の学び・成長について、手ごたえを感じていることがあれば教えてください。（自由記述）

【「考えて表現して」学ぶことに対して】

- 学習成果発表会の様子を見ていて、発表者は勿論、司会者も含め計画通りに一つのイベントをやり切りました。3年前では考えられないことであります。私の高校生時代を振り返っても、このような発表は不可能でした。まさに、3年間の取り組みの成果です。
- やっぱり、発表力だと思います。今の2学年が入学した頃は、各自がクラスの前で発表することによりかなり抵抗感を持っている生徒がほとんどでした。しかし、様々な発表を通して、彼らは目まぐるしく成長してくれている、と（担任目線の手前みそですが！笑）感じています。スライドによる資料作成や、アンケートの取り方（今の生徒はインスタでもアンケートできちゃうんですね^^;）も、特に教え込まなくともどんどんできるようになる様子も感心してしまいます。そんな機会を与えられたのも、この探究だと思っています。
- 自分の中に知識として残しておく量が減ったようにも感じるが、その分調べてまとめたりする力が伸びてきている子もいるように感じている。発表のスライドの中身や形式などの凝り方に成長を感じる部分もあったり、発表すること自体について慣れがあるようにも感じている。
- AiGROWのコンピテンシー測定において、創造性、実行力、傾聴、決断力が向上している。
- 発表することへの抵抗感がなくなったように感じる。



2-3. 所属校の先生方の変化

Q. 周りの先生方の変化について、
感じていることがあれば教えてください。（自由記述）

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

【探究に関する理解】

- これまで探究に懐疑的であった先生が多かったが、少しずつ探究を前向きに捉える先生方が増えてきた。
- 探究は受験や勉強の邪魔になる時間を取られるやる必要のないものという意識から、批判的な雰囲気や言動がとても多かったように感じるのですが、最近は学校全体でやるものとする先生方が増えてきたように感じます。また、探究自体を楽しむ先生方もまだ少数ではありますが、出てきた気がします。
- これまで外部と連携した探究には批判的な考えを持つ方もいたが、外部連携が当たり前になってきている。
- 本校では先生方は前向きに指導に取り組んでいらっしゃいます。これは貴法人のきめ細かな対応のおかげだと感じています。また、探究が一つの科目として校内での市民権を得ている状態になってきたと感じています。
- 探究活動にあまり積極的ではなかった先生が、課題に取り組む生徒へ自ら声掛けをしてくださるようになった。面倒な探究活動の準備も快く引き受けてくださるようになった。
- 探究に関わり、一年が進むにつれて、探究に対する先生方の価値が少しずつ変わってきている気がします。
- 学年団の教員の中に探究学習に肯定的な人と否定的な人（こんなことをやってなんの意味があるのかと疑問に感じている）が混在していたが、否定的な教員の態度が生徒の変容をみていくうちに変わっていったように思われる。やはり、教員としては今までにやったことがないことであるので、最初は懐疑的であるが、さすがに生徒の変容を間近で見ると探究学習に対する評価も変わってくるのであろう。
- なんとなくですが、探究とか否定的かな？と感じる教員も担任団（副担も含め）の中にはいると思います。しかし、発表や成果物を見るうち、そういった教員も反応が違ってきています。職員室で「〇〇（生徒名）の資料や発表が良かったよね～」という会話も聞こえるようになったと思います。以前は、「そんなにやらせなくても、形だけやっとならばよくない？」と言っていた人が、です。「あ、この先生もそういう前向きな気持ちで参加してくれてるんだ」とこっそり嬉しくなったりしています。



2-3. 所属校の先生方の変化

Q. 周りの先生方の変化について、
感じていることがあれば教えてください。（自由記述）

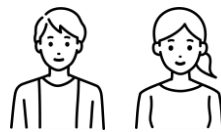
1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

【高校生への向き合い姿勢・向き合い方】

- 教科指導・部活指導とは異なる新たな経験に戸惑いながらも、先生たちが生徒たちに寄り添い、ともに活動する姿はこれまでの学校観を大きく変えたように感じています。
- 従来の総合的な学習の時間の実績経験で、どちらかというと懐疑的にプログラムに取り組まれた先生方も、生徒の個々の成果物(壁新聞・キャッチコピーなど)を見て、テンションが上がり、一気に探究モードに入っていく姿が面白かったです。生徒が変われば教師が変わるといいますが、まさにその通り。ただ校内でそのような風土が醸成されていくには、まだ時間がかかるかもしれませんが、確実に種は芽吹いていると思います。

【その他】

- 個人の価値観の関係が強いように感じる。もともと好きな人はさらに進み、そうでない人は停滞しているように感じる。
- 若手の先生を中心にWell-beingという言葉聞くようになった。
- 3学年について言えば、経験のある先生方が多いので、生徒やクラスを動かすことはノウハウを持っています。ただし、カリキュラム設計や活動の目的、そのための基本的な手段や方法が共有できないと、その力が生かせません。この部分でDNA様のお力をお借りしたい。
- ここについてはまだ課題を感じています。



1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

2-4. ご自身の学び・変化

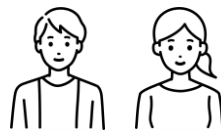
Q. ご自身の学び・成長について、
感じていることがあれば教えてください（自由記述）

【目的・目標の再確認・再定義】

- 私自身も何をもってWell-beingとするか考えるようになった。既存の価値観に囚われず、何が生徒にとっての大切なのか、この変化の激しい社会を生き抜くためのスキルをどのように伸ばしていくのか、いままで以上に考え、授業に落とし込む工夫をするようになった。
- 以前は、自分自身が何を目標に、目的に、この仕事をしているのかを見失っている感じでした。探究に関わり、DNAにコーディネートしてもらうようになったことで、仕事に対する目的や目標を意識するようになりました。今まで避けてきた様々な人と関わることの面白さにも気づくことができました。
- やはり変化が激しく、先行きの不透明な現代の社会では、必要な学習であると改めて感じる事ができた。私自身はもともと探究学習に対して前向きな姿勢をもっていただけだと思いが、様々な情報（有識者のコメント、書籍、社会で必要とされる力等）をみるにつけ、今後より必要になってくる事がわかった。今後、自分自身も探究学習に対する姿勢（特に教育に対する探究心）をさらにブラッシュアップしていきたい。
- これまで、社会情勢が求めている人材と新教育課程でうたっている探究活動を軸とした教育活動を推進していくことだけを考えていましたが、その学校ごとの教員集団がつくる空気感やそこから生まれる文化、教員一人一人の経験値による多種多様な価値観など、さまざまな要素を併せ呑んでの着地点の模索に苦労しました。しかし、ぶれない軸(生徒の成長)だけで見た場合、結局は同じゴールを共有するという点で、向いている方向は同じだということに改めて気づき、そこからは自分自身も鷹揚に学年の活動をみる事ができたと思います。DNAの皆様には、本当に辛抱強く伴走していただき心から感謝します。
- これまで特段大きな目標がなかったが、教務主任になり探究活動などを通して様々な学校の事例や活動を調べることで、様々な事柄を学ぶことが楽しくなってきました。

【探究学習への理解・意識化】

- 探究担当として、探究的な学び方について少し理解が深まっていると感じています。私は探究の専門ではありませんが、その実態、効果、課題について理解できたことが一番の収穫です。
- 探究学習の意義や具体的な実践方法について、全くの素人でしたが、DNAさんの資料や授業案を参考にしながら、少しずつ体得することができていると感じます。
- これまで探究はとても難しいものだと考えていましたが、生活の中に多くの探究課題があることに気づけたこと。
- 毎時間の授業や情報提供をいただくことで、探究についての理解を深めることができています。



1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

2-4. ご自身の学び・変化

Q. ご自身の学び・成長について、
感じていることがあれば教えてください（自由記述）

【生徒の見方・生徒へ向き合う姿勢】

- 教科や進路の垣根を越えて、生徒たちと未来を自然に語り合う経験は初めてのものです。生徒たちから学ぶことの多さにも驚きを感じています。
- 生徒への声かけや伴走の仕方で、ずいぶん生徒の取り組み方が変わるんだな、と改めて生徒と寄り添う教員の姿勢の大切さを学びました。これまた手前みそで申し訳ありませんが、私のクラスの生徒たちは反応が良く、私が探究の話をするときはかなり前向きな姿勢で聞いてくれます。（…勘違いかもですが。笑）以前、探究テーマや進め方について授業のなかで個別相談をしたことがありましたが、大変ではありましたがそれも良かったのかもしれない。生徒との距離が縮まったようにも感じました。それ以降はできるだけ、机間巡視をする際に、しゃがんで目線を合わせて傾聴し、生徒の悩みや不安を共有するようにしています。
- 当初は生徒には難しいと思っていた課題も、生徒が意欲的に取り組み、様々なアイデアを出し合ってひとつひとつ解決してく姿を見て、生徒の可能性に改めて気付かされた。

【自身の日常への活用】

- 探究活動で言えば、ミドルリーダーの立場であったので、その運営や舞台作りでは大変勉強になっています。但し、これは他の学校の活動でも同じです。生徒の探究活動という点では、それを発展させたり深めさせたりと言った働きかけはほとんどできなかったな、と言うのが正直な感想です。
- 新しい視点を獲得することができ、面白さも感じている。ただ、それを深めていくほどの気力を自分の中に感じられていないのが残念にも思っている。
- 自分自身に探究心が芽生えてきた。
- DNAの皆さんを見習って、つねにアンテナを高く張り、最新の教育事情に目を向けるようになった。10年先、20年先の学校の在り方を考えるようになった。
- どんなキャリアを積んでいくかということへの価値観＞結果 に変わった。
- 今までは何となく生徒とかかわってきていましたが、ほかの先生が取り組みやすいようにちゃんと言語化して説明する必要があるんだなと痛感しています。

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

● 3. 協働する先生方の立場から捉える 「現状認識」

1. 基本情報

2. 手応え

3. 現状認識

4. フィード
バック

5. まとめ

Q. 現在、貴校での探究学習の推進の「課題感」について、どの程度でしょうか。
(5段階評価)

質問項目	回答数 (n=23)	回答割合
5 とても感じている	3	13.0%
4 まあ感じている	16	69.6%
3 どちらともいえない	2	8.7%
2 あまり感じていない	2	8.7%
1 全く感じていない	0	0%

1. 基本情報

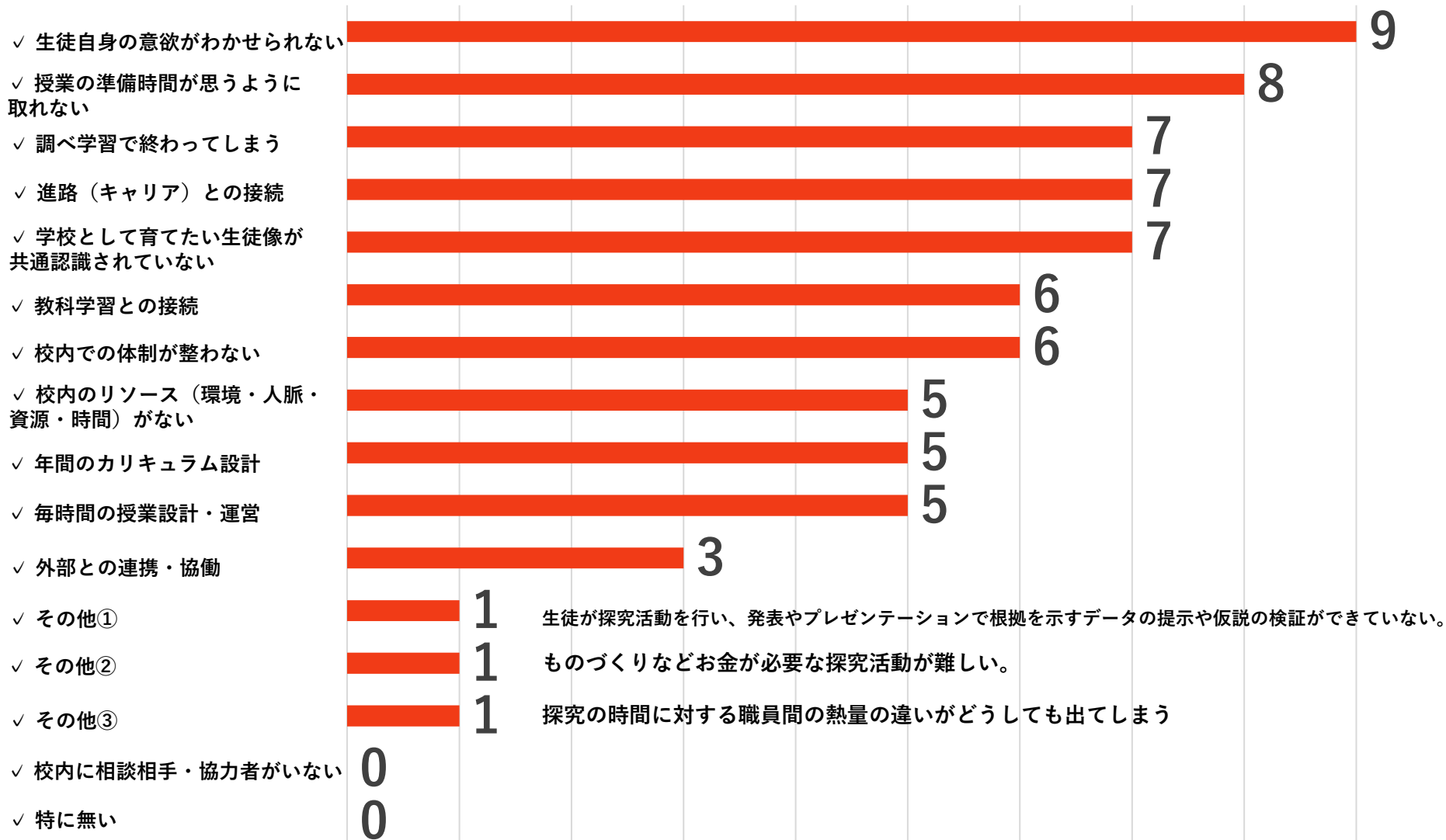
2. 手応え

3. 現状認識

4. フィードバック

5. まとめ

Q. 具体的にどのような点で課題を感じていますか。
当てはまるものにすべてチェックを入れてください。(複数回答あり)



1. 基本情報

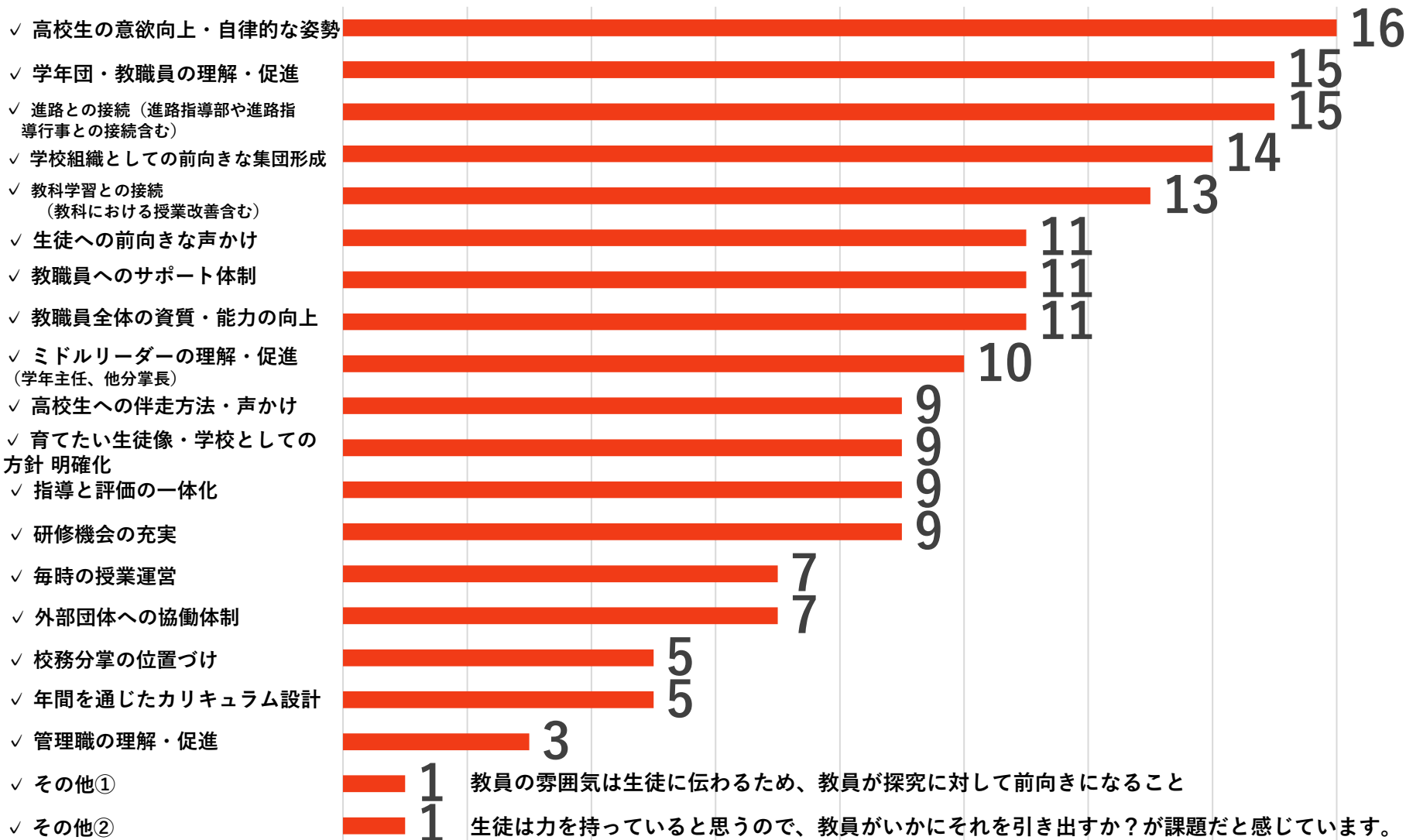
2. 手応え

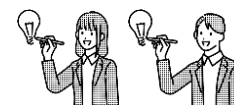
3. 現状認識

4. フィード
バック

5. まとめ

Q. ご自身の学校で、今後さらによりよくするために必要だと思われることは、どのあたりだと考えていますか。（複数回答あり）





1. 基本情報

2. 手応え

3. 現状認識

4. フィード
バック

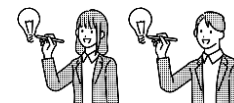
5. まとめ

3-4. ご自身が今後取り組んでいきたいこと

Q. 今後、ご自身がやってみたいこと・取り組みたいこと・理想なことがあれば、教えてください。

【教育活動のブラッシュアップ】

- 学んだ「仕事」に進むための手段や方法、今現在やるべきことなどを、大学の「学部・学科」研究だけにとどまらず、専門分野として研究されている「教授」、日本・世界で活躍されている各大学の「卒業生」などを調べ、自分の進む方向性を見える化させたい。
- 今の学校の生徒を1年生から指導したい。探究とは？自分の興味があることは？自分が社会に対して何ができるのか？を1から一緒に考えていきたい。
- 現状の探究に終わりではなく、その先もう1スパイラルぐらい、生徒がその先の探究活動を実践できると理想だと思っています。
- 生徒の興味関心を探究活動へとつなげることができつつあるので、ここから生徒たちの進路やライフワークへと結びつくものを掴ませてあげられればと考えています。
- 総合的な探究の時間が卒業後、生徒の充実した生活へ生きるような取り組みをしていきたい。進路や職業観、趣味など色々なところへ繋がる感性を養える時間にしたい。
- マンパワーがある程度求められるとは思いますが、1人1テーマで責任感を持たせつつ、活発な活動となるよう促せるとよいと思います。
- 教科×探究 学校全体で育てたい生徒像を実現する取り組みを行っていく
- (学校名) ラジオ。いえ、冗談です！ 社会人講話とか、生徒に対して「高校時代、こういうことに興味をもって取り組んだ結果、今こうなった。」あるいは、「あの時こうしたから、直接的ではないにせよ、今の自分がある」といった経歴を持つ方々からの講話を聴く機会も面白いかな、と思います。適任者を見つけるのも呼ぶのも大変だとは思いますが。
- 教科横断的な数学と探究をつなげていくようなことをしてみたい。
- 高校を卒業し、実社会に出ることを考えると、社会のことを少しでも知ってから卒業してほしいと願っている。そのためには、多くの大人の方々と話をする機会を年複数回は設けていろいろなことを吸収する場を作りたいと思っている。
- 部活動で探究部を作って、授業だけでは時間がたりない！！もっと探究をしたいという生徒を集めて、放課後気が済むまでとことん探究活動ができる環境を作ってあげたい。
- 理想は本校の探究活動でものづくりを希望する生徒にそれを制作できる環境をつくること。
- 3年間の探究活動が実際のその後の生徒の人生にどのように役立つのか、そのフィードバックを得ながら、高校生の探究活動を深化させていきたいと考えています。



1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

3-4. ご自身が今後取り組んでいきたいこと

Q. 今後、ご自身がやってみたいこと・取り組みたいこと・理想なことがあれば、教えてください。

【教育活動のブラッシュアップ（続き）】

- 具体的には、ルーブリックの作成(必要かどうかの検討も含めて)、生徒の探究カルテ(職員間でこの生徒の状況共有ができるツールの検討)、学校での取り組みを積極的に外部へ発信、生徒の活動の成果の発信(コンテストなどへの出場の促進も含む)、他分掌との連携の強化をしていきたいです。
- やはり問いの設定が一番の課題だと感じています。様々なこと、特に社会事象や科学的事象にもともと興味がある生徒にとっては、課題の設定は比較的容易だと思います。しかし、アイドルやメイクにしか興味がないなど、興味の対象が探究には向いていない生徒にとっては課題の設定は非常に困難です。群馬の高校生のほとんどの層がこういった生徒だと思いますが、そういった生徒がいかに探究学習をしていくのか考えたいと思います。同時に問いの設定が容易な層がより面白いクリエイティブな探究をしていくためにはどうするのかについても考えたいと思います。
- 小さな探究活動作りや今やっていることの探究活動化
- 数学と探究活動を結びつける。
- 中学校からの学びを踏まえた高校での探究学習

【よりよい学校づくり】

- 先生方がワクワクする職場にしていければと思っています。
- 同僚が示してくれている「地域が学校を作る生徒を育てる」だけでなく、「学校が地域を作る、地域社会の活性化の中核となる」と言うのが今後の学校のあり方の理想の一つだと思います。
- 同じ方向性をもった教員同士で同じ学校で働き、生徒の前向きな学習を色々なことに気を遣うことなく、突っ走ってみたい。生徒のためになると思ったことはどんどん前向きにチャレンジし、失敗したら次を考えるような前向きなマインドを学校全体に醸成したい。
- 探究に関する三年間の流れのイメージはできてきていると思うので、さらに継続的に活動が定着、発展できるように、学校全体で取り組む意識の向上を目指したいです。

【ご自身のキャリア・学び】

- 退職したらDNAに入る！笑 いま一緒に生徒を支えている地域の方々のように、若者支援をしながら地域を盛り上げたい。
- 自分が教育コーディネーターとして現場に関わっていきたいと思っています。校務との兼ね合いもありますが。
- これまで以上に見聞を広めること
- 私自身も受け身ではなく、能動的に動く意識を持って行動したいです。

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

●4. NPO DNAに対する 「フィードバック」

1. 基本情報

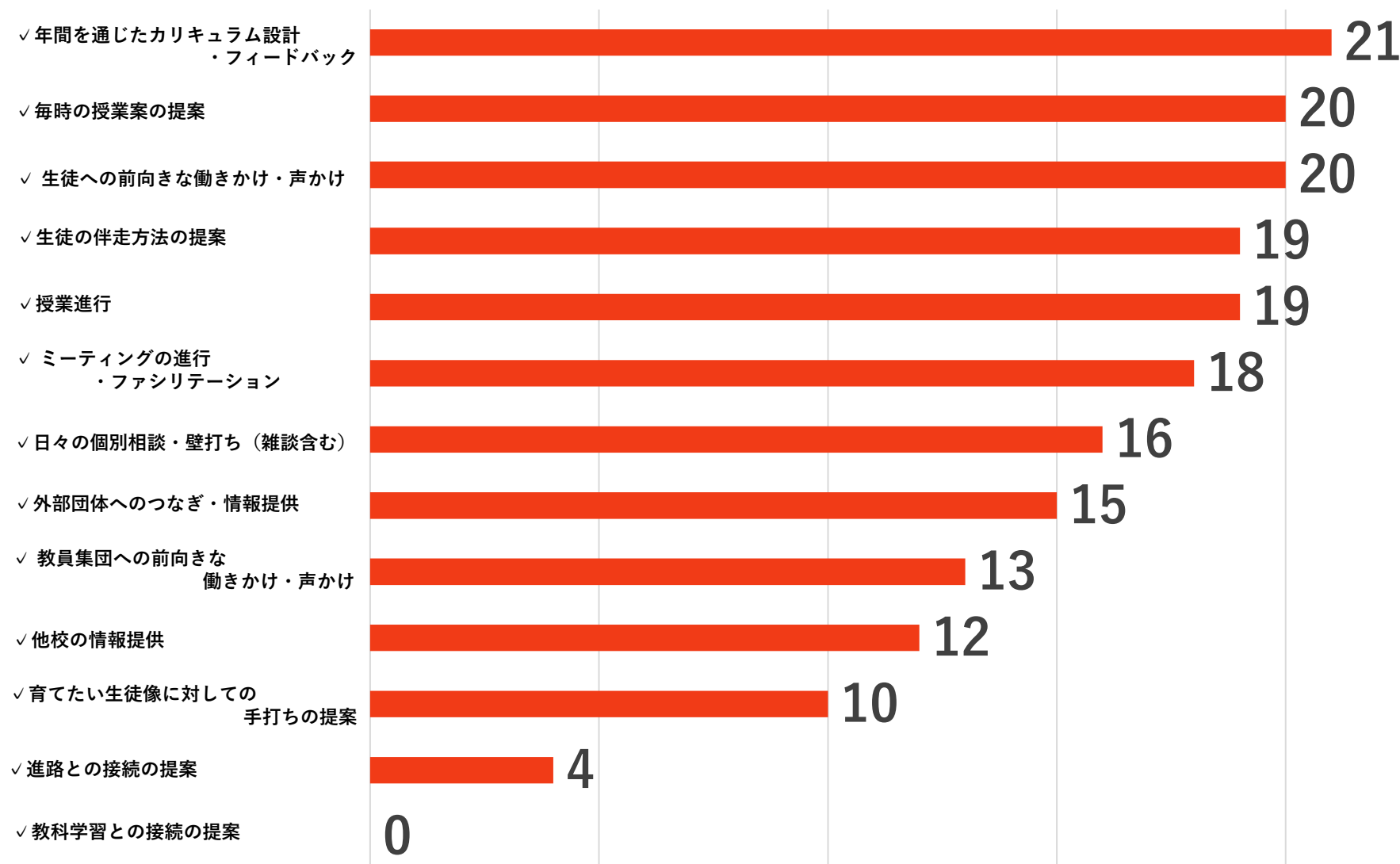
2. 手応え

3. 現状認識

4. フィード
バック

5. まとめ

Q. コーディネート（サポート）で「助かったと思えるもの」は何ですか。
当てはまるものにすべてチェックを入れてください。（複数回答あり）





4-2. コーディネートで助かったと思えること

Q. 具体的に助かったと思えることを教えてください。 (自由記述)

1. 基本情報

2. 手応え

3. 現状認識

4. フィードバック

5. まとめ

【年間を通じたカリキュラム設計・フィードバック】

- 年間を通じたカリキュラム設計・フィードバックについて、DNAさんのお力に感謝しています。学校として主体的にカリキュラム設計に取り組む人員・時間が確保できず、現状を踏まえた柔軟な軌道修正に対応して下さる点が本校において総探が進む原動力になっていると感じています。
- 『年間を通じたカリキュラム設定』学年ごとにその都度考えていたところから、目的や目標を明確にして、3年間を見通したプログラムに変更できました。そのおかげで、学校全体で探究を行うという意識が教員間でも意識されるようになったと感じています。
- 日々の授業や年間の流れを明確にできた。群響の深堀さん、メルカリ等外部との接続をしていただき、貴重な機会を得られた。
- 「年間を通じたカリキュラム設計」をしていただけたおかげで年間を通して系統的に生徒に対して授業を行うことができた。カリキュラムを一から全て学校だけで授業を作るのは容易ではないし、毎回場当たりの活動になってしまうと思われるが、そういった不安がなく1年間を使うことができた。そのおかげで生徒を当初設定した目的に対して、しっかりと指導することができたのではないかと考える。
- 育てたい生徒像に沿って、年間の見通しを設計し、日々の授業プランや教材を作成していただけるのは本当に助かります。日々の多忙な業務をしながら、探究の時間についても計画し充実させていくのは担当職員だけでは難しいことなのでありがたいと思っています。
- 本校としても探究を立ち上げて間もないので、他校の事例や最新の教育のトピックやアイデアをいただけるのは大変ありがたい。私立の高校は教員の移動がないから、教育活動がガラパゴス化するので、外部の方が入って教育活動を行うことで、風通しがよくなったと思います。また、DNAさんのおかげで、本校の探究活動における負担がかなり減っているので、これを当たり前と考えず、生徒と向き合える時間が増えたのとらえ、教員と生徒のコミュニケーションが増えるといいなと思っています。
- 私自身が探究活動の進め方の正解を見つけられていない中で、今後の方向性を見失うことなく、日々の授業資料や今後の見通しなどを提案して下さったため。決して押しつけがましくなく、たたき台として案を持ってきてくださり、議論のなかでこちらも納得しながら具体化できていくのがありがたかったです。また、業務のスピードも早く、待たされることなくありました。
- 年間通してのカリキュラム設計は、教員が気づかないところを指摘していただくなど、現場だけではわからない点にサポートしていただき助かりました。
- 年間のカリキュラム設計：これまでいきあたりばったりだった授業が、生徒の実情に合わせたよりよいものとなったこと。
- 年間を通じたカリキュラム設計について、0から1を生む最初で最大の作業。専門的に関わっていないと難しい。



4-2. コーディネートで助かったと思えること

Q. 具体的に助かったと思えることを教えてください。(自由記述)

1. 基本情報

2. 手応え

3. 現状認識

4. フィードバック

5. まとめ

【毎時の授業提案・進行・サポート等】

- 毎時の授業案の提案・授業進行は、教員だけで取り組むと膨大な時間がかかってしまうため
- 毎時間の授業設計については、校内の教員だけだと妥協したり、忖度したり、マンネリ化したりしてきてしまう。DNAと打合せをしながら設計できることで、高い目標を維持できています。
- 生徒の実態や課題に合わせた授業を提案していただけるのは、本当に有難い。
- 校内に「探究学習」の担当がいたとしても、現在のようなカリキュラムを校内の教員のみで行っていくことは大変難しいから。
- 授業案や教材の準備を我々教員だけで作成するのは、時間的にもノウハウ的にも厳しい。
- 自分の中でイメージで来ていることをきちんと言語化して授業案を作成してくれたり、他行の取り組み状況を教えていただけるのはとてもありがたく感じています。
- 「毎時の授業案の提案」ももちろん現場とすると大変心強かった。当然学校現場で考えるべきものであろうが、現実的に我々教員の時間的な制約を考えると、0から授業案を作成するのは大変な困難を伴う。その結果、探究学習が前に進まないという学校が多いのではないかと。ただし、単にDNAさんの授業案を我々がこなすだけでなく、我々現場と意見交換をしながら、本校の生徒に合った探求の形を作ることができたのではないかと思う。
- 「授業進行」「毎時の授業案の提案」は、どのように進めていくか、ペース的な面でもベースとなるものをアイデアからたたき台にしてもらえたのは助かった。
- 毎時授業案の提案：上記同様、生徒の姿勢が前を向くものが多く有り難い。
- 授業案作成の段階で、「育てたい生徒像」を基にしたものを提案していただいたため、早い段階で濃密な打ち合わせを行うことができ、我々も事前準備に多くの時間を割かずに効果的な授業を行っていただいた。

【外部団体の情報提供・つなぎや、他校の情報提供等】

- 自分たちでリサーチする時間や人脈もなく、助かる。
- 『外部団体へのつなぎ・情報提供』様々なフィールドで活躍されている方を、学校や生徒が必要な適確なタイミングで紹介いただけるので、とてもありがたいです。探究に関わるようになって、人材ネットワークがとても重要だと感じているのですが、どのようにネットワークを広げて良いのかわからなかったところ、紹介していただけたりつないでいただけたりするので、本当に助かっています。
- 特にプログラムではほとんどすべての段取りを整えていただいた。



4-2. コーディネートで助かったと思えること

Q. 具体的に助かったと思えることを教えてください。 (自由記述)

1. 基本情報

2. 手応え

3. 現状認識

4. フィードバック

5. まとめ

【生徒への前向きな働きかけ・声かけ】

- 高校生への伴走方法：教材を揃え、授業を進めていても、生徒にどのようなアドバイスをし、どう導いたらいいのかという点で迷うことがあって、その部分をサポートしていただいている。
- 教員からの提案では生徒を動かせられないところを動かしてくれるから。
- 伴走するのは担当教員だけではなく、探究が専門ではない教員です。担当である私もそれほど専門ではあり探究が専門ではない教員が伴走するのに参考になる資料などを用意してくださるからです。
- 教員主導でやる授業ではDNAさんがやってくださるプログラムほど生徒への前向きな声掛けが多くない。今回のプログラムでもコーディネーターのみなさんの声かけのおかげで生徒が前向きに学習に取り組む様子が見られた。
- 生徒への前向きな働きかけ・声かけは、教員とは違った視点で質問をしてくれ、生徒の躓いている点や今後のアイデアを上手に引き出してきていたと感じました。
- 「生徒への前向きな働きかけ・声かけ」をやっていただいたおかげで探究を楽しく前向きに行う生徒が増えたのではないかなと思う。特に、教員はやらせるというような上から目線の指導が多くなってしまいがちだが、DNAの皆さんは若い人も多くまさしく高校生の「伴走者」という感じで生徒に寄り添ってくれて、生徒は心強かったと思われる。話をしている姿も大変楽しそうであった。
- 日ごろから生徒と接しているとどうしても負の部分が目に行きがちであり、なかなか前向きな声かけができないが、その辺りを汲み取っていただき、生徒への前向きな声掛けを積極的にやっていただけた。
- 「高校生への伴走方法への提案」：自分たちもわからないものを生徒が四方八方に進めていく中で、どこまでに話とはどめたほうがいいのか、伝えていったほうがいいのかについて話しすぎない例としてよい情報をもらえた。

【教員集団への前向きな働きかけ・声かけ】

- 総合的な探究の時間の推進に、本当にご尽力いただいていると感じています。日々の授業のご提案だけではなく、先生方のマインドセットや優しい言葉がけなど細かのところまで、ご配慮いただいていることに感謝しております。
- 高校生への声かけや職員の伴走など、外部のコーディネーターの方に関わっていただくことで意識が高まり、職員の意識向上と生徒のやる気を引き出す大きな力となりました。
- 校内ではなかなか理想でものをいうことはできないが、DNAさんとの話の中では自分自身の考えを深掘りする時間にもなる。自分は生徒にどうなってほしいのか考える時間はそれぞれの教員にとって貴重だと考えます。



4-2. コーディネートで助かったと思えること

Q. 具体的に助かったと思えることを教えてください。 (自由記述)

1. 基本情報

2. 手応え

3. 現状認識

4. フィードバック

5. まとめ

【教員集団への前向きな働きかけ・声かけ（続き）】

- 教員集団、生徒への前向きな働きかけについて、本当に助かっています。「探究って、何のため？テストが近い時はテスト勉強、そうでないときはLHRの補填的時間？」という考えを持つ教員もいまだ少なくない中、専門的な知見を有するプロのDNAの方々からのサポートのおかげで、生徒は勿論、否定的な教員も少しずつ変化しているように感じています。私は前任校時代から、総合学科の総合の係として取り組んできたので、教科「産業社会と人間」やテーマ研究、学習成果発表会などを通して、「探究の時間」の必要性を実感しているつもりです。教科学習だけでは獲得できない学びへの主体性や気づき、何より学ぶ楽しさを追求できるものが「探究活動」だと思っています。そうした動きを、内部だけでなく、外部機関としての情報提供とともに一緒に伴走していただけるDNAの存在には本当に救われています。適切な場面でのサポートや提案などにより、私たち教員が「楽しいかも！」と思えるような仕掛けを生徒に提供できるのも、DNAによるところが大きいと思います。私自身、まだまだ知識も経験も浅いため、自信も持てないなか取り組んでいるのですが、本当に助かっています。ありがとうございます。
- DNAのスタッフのみなさんが言っているから、「よし、やろう。やってみよう」というところが多いと思います。

【その他】

- 特に本校1年の企業訪問では、アポ取りからスライド発表まで、DNAさんのお力添えなくしては実現できなかったと思います。
- ファシリテーションスキルについて教員が学ぶべきところが多く勉強になりました。
- 2学期には私がコロナ後遺症と思われる症状になってしまい、探究業務に割ける時間がほとんど取れないなかで、無茶振りが多くなってしまいましたが、快く引き受けてくださいました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

1. 基本情報

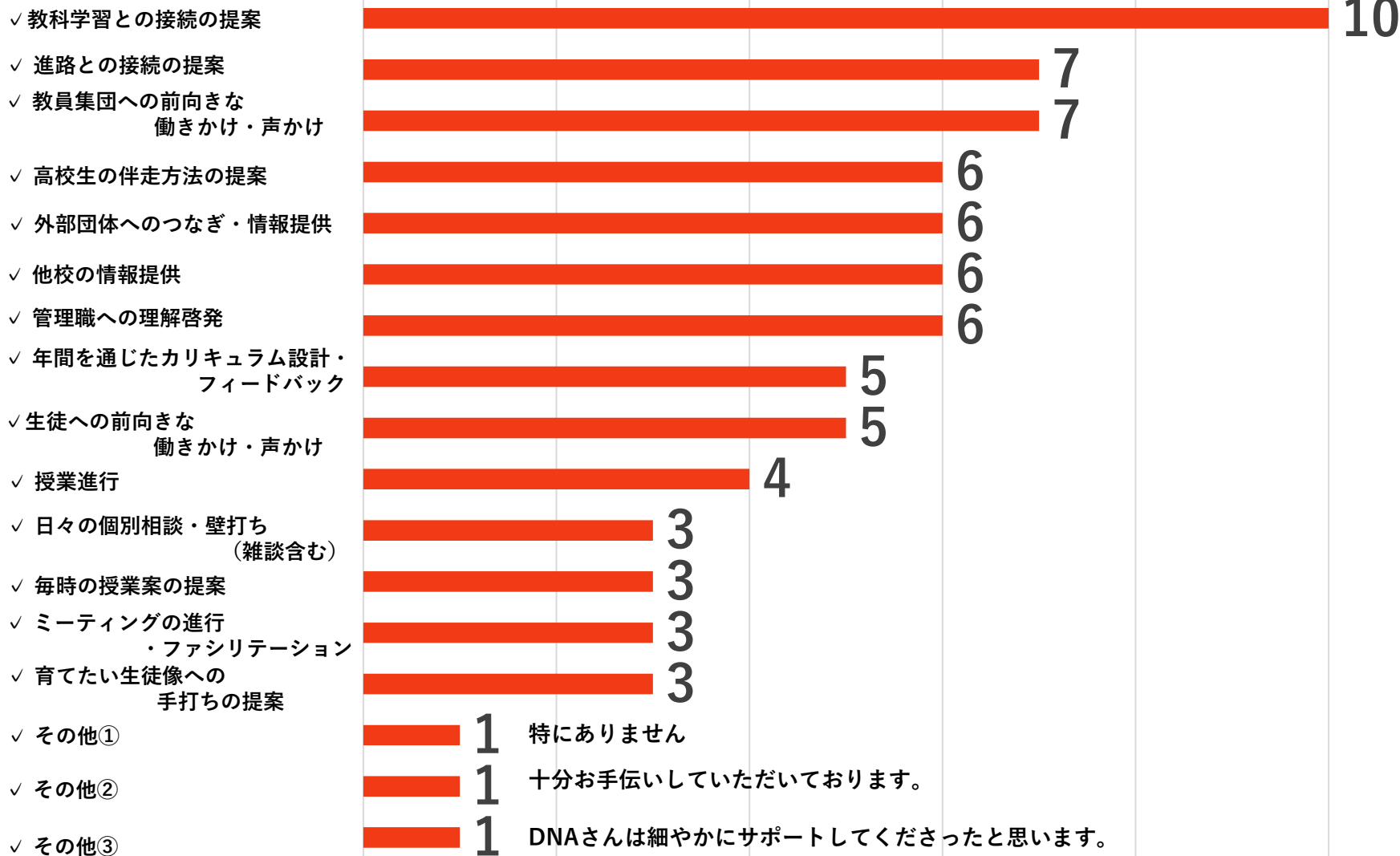
2. 手応え

3. 現状認識

4. フィード
バック

5. まとめ

Q. コーディネート（サポート）で、「もっとあったらいいな」「してほしいな」と思うものは何ですか。当てはまるものにすべてチェックを入れてください。（複数回答あり）





1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

4-4. もっとこうしてほしいこと・改善点

Q. 具体的に「もっとあったらいいな」「してほしいな」ということを教えてください。（自由記述）

【教科学習との接続】

- 教科指導がコンテンツベースから抜けきれない。探究的な活動を取り入れながら、指導と評価の一体化を進めたい。評価に関しても、「評価＝評定」という考えから脱却しきれていない。
- 教科横断型の取り組みを検討したい。日々の学習の意義を見出し、深い学びにつなげたい。
- 探究と教科をつないで、教科で輪番で担当者を回すという方法も面白いなと思っています。
- 教化学習との接続については、私自身とても興味がある項目です。英語のテキストを見ると、扱う英文テーマによっては探究につながれそう、と思うものもあるので、やってみたいと思うものの、なかなか手が出ず授業内容を指導することで時間的にも精一杯な状況があります。そのあたり、他校での様子も含めて教えて欲しいと思っています。
- 進路の話をする、現2年生が受験する共通テストは新学習指導要領になり、試作問題では現代文も社会も、数学も情報もすべて現実世界の何かしらのデータを読み取る問題が増えています。入試で求められる力も知識から、複数のデータから法則性を見出し、それを解決するための力を測るものになってきています。探究を、教科に繋げたり進路に繋げたりするためには、シンキングツールの使い方だけではなく、データの分析力も鍛えていきたいです。当然これは、教科と探究の両輪でなされることなので、私たち教員もより一層の努力が必要と思っています。

【進路との接続】

- 具体的なことを一つあげると、生徒の進路希望とコミットすること。であれば、真剣に考えたり、考えを発展させやすい。また、実際に生徒自身が得た経験や成長は学校型推薦入試や就職試験にそのまま生かせる内容です。
- 「探究学習」で学んだキャリアについて、実際進路先を決めていく際、あまり関連させ考えられていないように思われるため。また、「仕事」からそれを「学ぶ」につなげていけるとより有効な進路実現につながると考えるため。
- 「進路との接続提案」→従来の価値観（一般入試至上主義のような価値観）を大切にしている教員はいまだに探究学習に対する意識が高くないが、探究学習が進路につながると理解できれば、探究学習に関する考え方も大きく変わってくると思われる。そのために、進路と接続し、目に見える形で結果を見せることが重要であるとする。



4-4. もっとこうしてほしいこと・改善点

Q. 具体的に「もっとあったらいいな」「してほしいな」ということを教えてください。（自由記述）

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

【生徒への前向きな働きかけ・声かけ】

- 高校生への伴走方法への提案、生徒への前向きな働きかけ・声かけについて生徒は日々の教科学習に忙しいという現実があり、そのなかで探究活動を進めるのに煩わしさを感じている生徒もいる。もちろん、DNAさんのおかげで、本校の探究活動に魅力や意義を見出し、意欲的に取り組む生徒が増えたと感じるが、さらにその割合を増やせるとよいと思ったため。企業訪問でも何でも、こちらの押し付けではなく、生徒自身に目的意識をもってもらいたいと思ったため。
- 今後も生徒の成長のために、前向きな声掛けをしていただきと思います。また、より強固な関係を築くためにもオンラインを含めた打ち合わせの機会を一回あたりは短時間でも回数がもう少しあると助かったかなと思います。

【学校組織全体・教員集団・管理職・への働きかけ・声かけや、カリキュラムマネジメント】

- 約2年間、総探のコーディネートでお世話になってきましたが、総探を体系化し、組織的に強固な土台を作っていくためのプロセス作りに引き続き伴走していただけますと幸いです。そのうえで、現2年生が3年生になった際の探究学習のゴール（着地点）をしっかりと見つけていきたいと思っております。
- ご多忙の中、難しいとは思いますが、先生方に対するお褒めの言葉や、生徒の評価などをお聞かせいただいておりますが、直接、先生方とお話していただく機会があると、先生方のモチベーションもさらに上がるのではないかと考えてはいます。
- 時間的な制約、マンパワーの制約があるのは重々承知の上で、あえて言わせていただくと、毎週学校に来て、色々なことを相談しながら探究カリキュラムを作成していただきたい。どうしても、コーディネーターがいない日は中身が薄くなってしま（これは学校の責任だが）ことがあるので、そういった状況を少しでも減らしていけたらよいと思う。もう一点、毎回様々なワークシートや学習展開案、生徒のアンケートフォームなどの事務作業を請け負ってくださるのは大変ありがたいので、今後も継続していただきたい。
- もしかしたら、実践されているかもしれないですが、探究の担当者だけでなく、授業の際に担任の先生にも積極的に声掛けなどをしてもらって、担任自身がうまく声掛けができるようなサポート等もしてほしい。探究担当者は会議のたびに話をしているので、取り組みやすいですが、自分たちからのサポートも不安と疑問は多いので、直接という流れが少しでもあると違うような気がします。すこしでも探究についてわかる人が増えるとやりやすさも違うので。
- 様々なクラスの活動を見ていると、教員の役割りはファシリテーションだけではなくて、技術的な内容の指導も必要であるように思います。理想は、生徒のレベルを一段階上げてくれるような教員の集団になりたいです。
- 他のクラスの生徒からの意見で、せっかく考えたアイデアを担当の先生に否定されるといった意見が多く上がるので、生徒が前向きになれるかわり方の研修や資料があるといいなと感じています。自分でも働きかけはしていきますが、第三者からの働きかけは貴重です。



4-4. もっとこうしてほしいこと・改善点

Q. 具体的に「もっとあったらいいな」「してほしいな」ということを教えてください。（自由記述）

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

【学校組織全体・教員集団・管理職・への働きかけ・声かけや、カリキュラムマネジメント】

- 「管理職・他教員への前向きな働きかけ」や「教員集団への前向きな働きかけ・声かけ」は組織としての課題であり、総合的な探究の時間だけに限ったことではありませんが、教科指導や部活指導のように専門性がない分、総合的な探究の時間は教員間、教員・生徒間の垣根を超えた協働が可能であることに大きな魅力を感じています。
- 現在、DNAさんがデザインして進めている取り組みが、他校ではとても真似をすることができない素晴らしい規模・内容になっていることを、先生方で共有できればと感じています。試行錯誤をしながら進めているので（悩んでいるところもあるのではないかと思います）、生徒だけではなく、先生方も頑張ったことが認められるような機会があればよいのではないかと思います。研修や活動報告会とかを企画すればよいのでしょうか？
- 教育活動は授業や部活動、学級活動や学校行事、その土台として生徒指導や教育相談であり、多岐にわたります。その最前線が担任であり、3学年の先生方も意欲的に進路実現やクラス経営に取り組んできました。そのため、いかに担任団が理解しやすく生徒に力を注ぎやすい提案ができるかが鍵であると私は考えています。授業案などを学年（担任団）におろす段階でいかにわかりやすく具体的なものにできるか。また、担任団の疑問や意見に対し、いかに返答し、柔軟に対応できるかが最優先であると考えています。
- 管理職・他教員への声掛け 学校全体として総合的な探究の時間を充実させていくことを考えるべきなのですが、なかなかまだ総合的な探究の時間のとらえ方には教員個々の意識の差を感じます。そこで、DNAさんから声掛けしていただくことでもう少し、学校全体として総合的な探究の時間に対して前向きな取り組みをしていけるのではないかと期待するからです。
- 教員集団への前向きな働きかけ・声かけ...教職員の共通理解を図ることが困難な場面が多々あったため。生徒の実態とのすりあわせも含めた共通理解と見通しを持たせる場を関係職員に向けて学期に1・2回設けても良かったかもしれない。
- 「教員集団への前向きな声かけ」→やはり、我々教員が生徒に対して指導をすることになるので、教員集団が探究学習に前向きにならないと、生徒へ良い影響を与えることができないから。
- 「管理職・他教員への前向きな働きかけ」→学校内で唯一職務命令を出せるのは管理職であるため、その管理職が責任をもって学校の方向性を決める必要があると考える。
- DNAへの要望というより、学校組織が抱える課題が多々あり、せっかくのプログラムを効果的に学年内で共有できなかったことが課題です。校内研修で探究先進校や取り組み、生徒が主体的に探究活動をして卒業後のキャリアに結びついた事例などを紹介する機会など設けられたらいいなと思います。
- 「育てたい生徒像に対しての手打ちの提案」：今年度、スクールポリシーを学校全体として確定したので、それに沿って改めて合った形で進められるとよいのかもしれないと感じました。（大きく今までのものと変わることはないと思うのですが、形式上でもスクールポリシーとして学校内での固まったものつつながっているといいのかなと）



4-4. もっとこうしてほしいこと・改善点

Q. 具体的に「もっとあったらいいな」「してほしいな」ということを教えてください。（自由記述）

1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

【他校に関する情報提供】

- 他校の様子については、よくお話頂いているので感謝しています。ここでチェックしたのは、今後も継続して情報提供していただきたい、という意味です（笑）
- 他校で何を行っているかは常に知りたいです。

【その他】

- 事前に活動の趣旨や手順などを把握できずに当日を迎えている先生もおり、効果的に探究が進められていない場面も見られました。このことを解消するためには、前日までにコースごとにすべての先生が参加する打合せの時間を持つことが必要となるのですが、やはり現実的にはかなり難しいです。資料や動画を見ておいてくださいというのなかなか徹底できないのが実情です。教員の意欲の問題というよりは時間の確保に課題があるのではないかと考えています。
- 今後も継続的に情報交換（雑談を含む）をさせていただきながら、群馬県全体の高校生の学びを支えていただきたい。教員はどうしても生徒との関係が「タテの関係」になってしまいがちだが、生徒の本当に学びには、教員以外の「ナナメの関係」の大人の存在が必要であると考え。そのため、若いDNAの方々の支えが生徒にとって大変ありがたい存在であると考え。以上、勝手なことを申し上げまして失礼いたしました。これからもよろしくお願いします。
- 生徒たちは楽しんで探究をやっているの、私たちもそれに負けないくらい楽しんでやっていきましょう。
- 日々の個別相談(雑談を含む)では、DNAの方々から我々教員も多くのことを学ばせていただいております。たとえ雑談であっても、そこには広く教育活動に役立つヒントも多く、様々なことに気付かされます。
- 今年度は1年生に関しては当初のプログラムからの大きな変更による修正、2年生はまったく新しいプロジェクトの進行など、本当に大変な中、最後まで伴走していただき心から深謝申し上げます。スタッフと先生方の黄金コンビは、4月当初は想像できませんでした。もうこの二人でファシリテーションばっちりです。
- これはあくまで個人的な意見ですが、NPO法人とはいえコーディネーターやプログラムに関する対価はもっと高くてもいいのではないかと考えています。教材会社の探究プログラムなどをいろいろと見ましたが、どれも「帯に短し襷(タスキ)に長し」といった具合で、なかなかいいものはありません。DNAさんは、学校に併せてカスタマイズしてくださるどころか、ゼロからプログラムを考え伴走してくれます。あくまで個人的な意見です。



1. 基本情報	2. 手応え	3. 現状認識	4. フィードバック	5. まとめ
---------	--------	---------	------------	--------

4-4. もっとこうしてほしいこと・改善点

Q. 具体的に「もっとあったらいいな」「してほしいな」ということを教えてください。（自由記述）

【スタッフに対する激励・応援コメント】 ※お心遣いに、スタッフ一同、心より感謝しています！

- 少ない人数で、本当に多くのことを学校のために動いていただき、ご苦勞をおかけしていると思うので、お身体に気をつけていただければ幸いです。
- 十分すぎるくらい学校のために動いていただいているので、特にありません。
- 少ない人数で、本当に多くのことを学校のために動いていただき、ご苦勞をおかけしていると思うので、お身体に気をつけていただければ幸いです。
- スタッフの皆さんが幸せに生きてほしい！
- もっとわがままに生きていいと思う。
- 特に思いつきません。今後ともよろしく願いいたします。
- 安定を求めずに、年々再構築していきましょう。
- スタッフのみなさんが倒れると困るので、時には手を抜いた方がいいと思います！
- 一緒に楽しくやっていたらと思ってます！
- 特にありません。いつもありがとうございます。
- いつも大変助かっています。今のままで十分です。ありがとうございます。
- 特にありません。今のまま、変わらずこれからもよろしく願いします！学年や学校によって、前向きではない、というか、協働的ではない職員もいて、DNAの方々にはご迷惑をかけてしまっている場合もきっと多々あるのではないかと心配な気持ちもありますが、私は本当にDNAには感謝しかありません。来年度もぜひご一緒できることを願っております。
- 「雑談」がしたいです。笑

終わりに

ご回答いただいた教員のみなさんに、
NPO DNAスタッフ一同、心より感謝申し上げます。

また、普段から協働いただいている
教員・企業・地域社会のみなさんにも、
心より御礼申し上げます。

そして何より、出会ってきた
すべての群馬の10代のみなさん、
いつも、本当にありがとう。

NPO DNAスタッフより